

都市景観の情報密度の違いによる空間の変化

～空間の変化にメリハリをつけて多様な居場所をつくる～

指導教員 吉松 秀樹 教授 印

2BEB1201 小松 寛征

1. 東京の街並み

東京の街は魅力的である。開発による計画道路などにより分断され、大通りと路地が混在する街並みが形成されている。その都市空間の景観が変化する場所が魅力的に感じた。(Fig. 1, 2)



Fig. 1 表参道の景観の変化

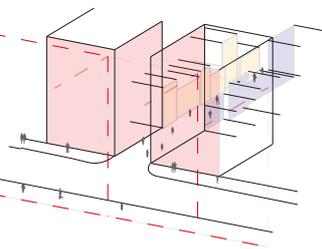


Fig. 2 大通りと路地の交差

2. 景観の情報密度の変化

都市の景観の中での情報とは、建物や看板等のエッジである。私たちが目で捉えている街の景観を1枚の写真として見たときに大通りと路地を比較して、その情報の密度が大きく変化している所に着目した。写真の輪郭線を取り出して比較する。

(Fig. 3, 4)



Fig. 3 密度が高い路地空間 (小岩) Fig. 4 密度が低い大通り空間 (小岩)
 □ 密度が高すぎて潰れてしまう。 □ 密度が低い。

道と平行にある壁面から垂直方向の情報の重なりが多い場所と、情報の重なりが少ない場所により変化している考えられる。(Fig. 5, 6)

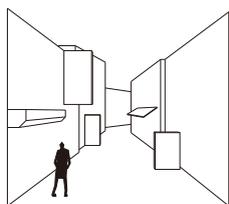


Fig. 5 情報の重なりが多い空間

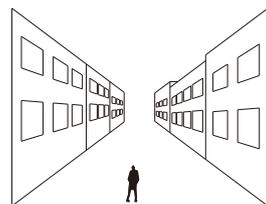


Fig. 6 情報の重なりが少ない空間

3. 場所毎に情報密度が変化する空間

情報の密度の変化を利用して、住宅の設計を行う。壁や吹抜、段差により線の情報が増え、密度が高くなる。また、線の情報を減らしたファサードやリビング空間とすることで、入り口と内部、内部同士での密度の変化を作る。

(Fig. 7, 8, 9, 10)

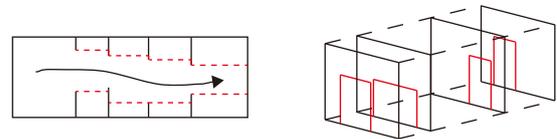


Fig. 7 壁面を連続させて情報の重なりを多くしていく。



Fig. 8 壁の連続

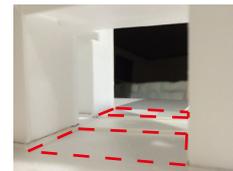


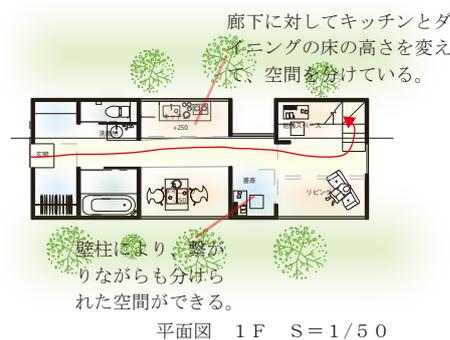
Fig. 9 段差



Fig. 10 吹抜の連続

4. 提案

場所により、情報の密度が変化していき、広いスペースでは密度が低く、狭いスペースでは密度が高くなる。場所毎に自分の居場所を作れる住宅とした。(Fig. 11 模型写真)



平面図 1F S=1/50

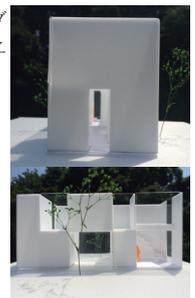
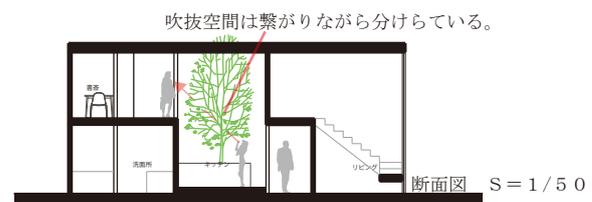


Fig. 11 模型写真



断面図 S=1/50